

<今回>341回目 2024年1月15日(月)14時~17時 602会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p500、2つ金石文 より

<前回>340回目(23-12-18)出席者10名

資料1) ~~(2-3-1)~~第338回(23-12-4)のまとめ(清水)

資料2)鼠移動記事の意味するもの(黒澤)

資料3)奄年「王年代記」(清水)

A 報告 金曜webで日本書紀の「鼠」に関する記事の発表があった。九州倭国の土木・建築の企画技術集団と近畿側が呼ぶときの名前としている。発表はA4枚、2回分の量があるが、初めの2枚を参考にコピーした。面白い視点だった。

B資料 2)鼠移動の記事の意味する物。(黒澤)が 鼠の呼称は日本書紀には5箇所以上出ている。北に向かう、都に向かう、近江に向かうなど、淳足の柵、近江の都、など九州倭国の技術・技能集団のことを指しているのではないかというものである。

3)宋史日本僧裔然の「王年代記」(清水)九州長老の天津神、国津神の区分や、神代記の異伝、など平安中期まで、日本書紀が無かったように統一されていなかった。

C 読書 朝日文庫版:p492、会丞のエピソード。

- (1) 中国史料「法苑珠林」は唐の道生(字は玄奘)の撰、唐の高宗の詔により京師西明寺にいた高僧で、その中に倭国の記事がある。①隋の大業の始めに隋に来た「会丞」という人物があった。学問に努め内外の博知だった。唐の貞観5年(631)(舒明5年)道俗7人と共に帰国した。②帰る前に長安の大徳と問答した。大徳の問いは經典に仏は死んで100年後阿育王が、全世界に仏塔を築き仏舍利を納めた。と書いてある。それは全部で8万4千塔、倭国に仏教が広まったのは晚かったというが、それ以前阿育王が建てたという仏塔があるか、その有無を聞きたい。③經典の記述を、そのまま歴史記述とみなそうとした、のに対して会丞は答えた、倭国では文字がないから、典拠はないが靈跡はあります。土地を掘ると時に古塔の靈盤かと思われるものを得ることがあります。それが大徳の言われる「阿育王塔」と思いますと答えている。④松下見林は「異称日本伝:に会丞の名は無いから、福因の誤りだろうという。福因は推古31年(608)帰国、会丞より8年前に帰国。
- (2) 福因は学生で、会丞は官人、高句麗にも丞という冠位がある。丞が多利思北孤の倭国の官名として用いられている可能性がある。室見川沿いの有田遺跡から60cm高の装飾付き台器が図示されている。倭国の官名の一端が「法苑珠林」によって知ることが出来た。(「室見川の銘板」取得に近い)
- (3) 残影。旧唐書、新唐書、①作成は日本の平安朝に当たる。ここで初めて「天御中主」以下「光孝天皇」仁和元年(885)までの近畿天皇家の系図が描かれている。②これに中国史書に記載されていた九州王朝の倭国の事実を当てはめている。③用明天皇の頃に「亦多利思比孤」と云う、隋の開皇の末に初めて中国と通ず。④僧裔然という東大寺の僧(藤原氏)が5, 6人と銅器10余、職員令、王年代記、1巻を献ず。④宋史は王統について、国王の姓を「王」と、倭王の姓は「阿每」、名は「自多利思比孤」書を致すとして両王朝の姓の区別があるとして、「王」は中国側の誤読であるが、新旧両王朝を異姓とみなしている。(目は字、自)

2024-1-29(月)14時から17時 603会議室

2-5(月) 14時から17時 602 会議室